



[自然科学の時間・日本のロボットと上海万博]

中国製机器人は日本の夢を見るか？

株式会社エルエルパレス ホビーロボット事業部「ロボットフォース」
岩気裕司

東京国際ブックフェア 2010

森田猛 (緑書房)

北京国際図書 BF 視察レポート

牛来真也 (コロナ社)

ほか

社団法人 自然科学書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-101 神保町101ビル1階 TEL 03-5577-6301

【自然科学の時間・日本のロボットと上海万博】

中国製机器人は日本の夢を見るか？

株式会社エルエルパレス ホビーロボット事業部「ロボットフォース」
岩気裕司

10月31日まで中国で開催されている上海万博。
こちらに、自称大阪の観光大使ロボ「通天閣ロボ」が参加しました。
通天閣が有名ではない海外で、
通天閣ロボはどのような歓迎を受けたのでしょうか。



「通天閣ロボ」上海万博に参上

『通天閣ロボぼぼぼぼくん』というセリフを聞いてピンとこない方のために、「通天閣ロボ」のことを簡単に紹介させていただきます。

今年の三月にデビューしたばかりのこのロボットは、大阪の活性化を目指してつくられた観光大使ロボ(自称)で、通天閣観光(株)の依頼により大阪日本橋電気街の有志によって製作されました。

身長一七〇センチ以上、体重約三〇キロ、軽合金やカーボンFRP材で作られた世界最大級の二足歩行ロボットで、通常は通天閣内で動態展示しておりますが、バラエティ番組やイベントへの出演、公共キャンペーンの他、観光大使として東京タワーや上海万博を訪問するなどの活動を精力的に行っております。

申し遅れましたが私、岩気が機体の設計、実機を製作し現在も運用を担当しております。

今回はその話題(?)の「通天閣ロボ」を連れて上海万博に行ってきたお話をします。さて、上海万博にロボットを出展といえば、日本館とか、日本産業館を真っ先に思いつくでしょうが、今回の目的地は大阪館。橋下大阪府知事や、平松大阪市長らと共にへなにわの日(7月28日)に合わせて大阪館で行われるイベントへ参加するのが目的です。

実質2日間ですが、イベントとは別に大阪館脇に展示スペースを用意していた

できましたので、中国の方に真近で通天閣ロボを見ていただける機会を得ました。

上海でもロボットは大人気

心配だったのは、このアウェイの地でちゃんと観客を惹きつけることができるのかということ。あまり興味を持ってくれないか、たはどうしようかと。中国国内では元ネタの通天閣の知名度が低いので、あの通天閣がロボットになった」というファーストインパクトは期待できませんし、鉄塔然とした姿をロボットとして認識してもらえないかどうかとも自信がありません。

そもそも、通天閣ロボのようなエンターティナー系ロボの意味自体が理解してもらえないのかも不明です。昔から日本製のロボットアニメが放映されている地域は「ロ

中国の報道陣にマイクを向けられる通天閣ロボ



ロボットはお友達文化圏」なので楽勝なのですが、中国、上海は微妙です。ネットで調べても同種のロボットはいないよう少々寂しい。

ですが、始まってみると、それも杞憂に終わり、搬入した段階から「机器人、机器人」と口にしなから人が集まってきます。ロボットを中国語で「机器人(チーチーレン)」というのは知っていました。実際に普通の人たちの口からこの単語が出るのを聞くとなんだが嬉しくなっています。ここも「ロボットはお友達文化圏」決定です！ 皆さん興味津々です。もうホームです。

デモの内容は専用に作った中国語バージョンの自己紹介と大阪の観光案内ですが、大きな動作では驚き、ロボットの表情にも反応して、日本と同じように聞いてもらえました。あたり前のことに思うでしょうが、上海出身の方にも協力してもらって長い時間をかけて準備したプログラムですから、日本と同じ反応なら苦労が報われたということ。それどころか、話しかけたり、手をかざしたり(センサーの反応を見る?)など、皆さん慣れてらっしゃる?

積極的な中国の観客

もちろん写真撮影をしていく人が多いのも同じ、ただ積極的な人が多いというか、写真欲が強いというかパーティションの中にズンズン入ってきて通天閣ロボと並んでポーズをとっています。おかあさん

が子供に「そこに並んで立ちなさい」とか指示しているのは日本でも良く見かける光景ですが、大人が1人で横手から回り込んでパーティション内に迷いなく入ってくる、会場のスタッフか誰かが用事があつてきたのかと思つて身構えてしまいます。こちらも中国語がわからないとはいへ、礼儀として、一言、なにか許可を求めるアクションが欲しいですね。と言いつつ侵入者?があると、リモコンでわざわざロボにポーズをとらせたりとサービスしちゃうところが日本人の性ですかね。

質問攻めにあつ

事前にこの展示があることを中国内で宣伝してあつたわけではないですから、予備知識なしでイキナリ遭遇した方ばかりで質問も多かつたです。あ、多分質問です。中国語わかりませんが何か一生懸命聞いているのは分かります。観光用のパンフを渡して誤魔化しちやいましたが。ロボ自体の説明のパンフも用意しておくべきでした。そんな中で、やはり本格的に興味のあるひとはパーティション内にズンズン入ってきます。ある技術者の方でしたが、ちよつと話してみても、お互いに日本語、中国語が話せないことを確認。たどたどしい英語(英語?)で、なんとか会話しているものの肝心の技術的な事は説明できません。筆談でも専門用語の中国語がわからないとムリです(カタカナ多い)。

それでもあきらめる彼ではありません!

やおら携帯電話を取り出すと自分の職場の動画(機密じゃないのか?)を見せてくれて、自分がどういう仕事をしていて、どの部分が知りたいのが説明してくれます。こつちはそれに対応した部分を動かして見せて応えるといったハイテクなんだか原始的なんだかわからない方法で目的を達成して(たぶん)帰って行きました。欲しいものがあれば言葉の壁など全く気にしないバイタリティを感じましたね。

小さなロボットは足で触れる?

この等身大の通天閣ロボの他に「小天閣」という身長四〇センチくらいの小さなロボットも持ち込んで、観客の足を歩き回らせたり発話させたりしていたのですが、こちらも子供達に大人気で、みんな話しかけたり、足で蹴ったりしてくれます。ん?、何故、足で蹴る?

なんでイジメルかね?と思つてリモコン操作で逃げても同じ。で、よくみると強く蹴飛ばすわけではなく、足でへふれていゝ感じ。日本なら、しゃがんで頭を撫でるとか、腰を折つて手を伸ばして握手をするところ。です。

もちろん、しゃがんで手を伸ばしてくるお行儀の良い子もいるけど、足派が大多数です。しかもこれは子供だけでなく大人も同じ、でもって片足でのバランスが妙にいい、みんな器用に足を使います。太極拳とかやっている人も多いし普段から足は良く使うのか? 足を使うのは、いくら相手が

ロボットでも失礼じゃないの?とは思いますが、大きな通天閣ロボに対しては、足なんか使わないので、手が届けば手、届かなければ足という習慣とか文化なんではないかな。

万博でロボットに会い(つ)こと

ちなみに休憩の間にこの「小天閣」を大阪館の外に持ち出して各国のパビリオンをバツクに道路上で記念写真を撮つたりしていたんですが、これをめざとく見つけて「机器人、机器人」といって人が寄って来ます。

炎天下で焼けそうだったので電源は切っていたし銀色の塊にしか見えなと思うんですが(その上デザインが人型っぽくない)、何故かロボットだと認識している。みんな好奇心旺盛です。万博にすれば周りは面白いものばかりに違いないと鶴の目鷹の目なんです。

思い起こせば、一九七〇年の大阪。まだ小学生だった私が最初にロボットの啓示を受けた?(最初に感化された意)のが大阪万博だった。あのときは自分も好奇心一杯で眼を皿のようにしていたなあ。

この上海万博では、中国製のヒト型ロボットにはお目にかかれませんでしたけれども、ぜひ次の万博では、これだけ好奇心が強くバイタリティがあつてちよつと文化の違う人たちの作ったロボットを沢山見てみたいものです。

岩気裕司(いわきゆうじ)

近畿大学法学部卒四九歳。ホビーロボット分野の成長を見越して二〇〇四年、実機製作とイベント企画運営を行うロボットフォーラムを設立。「ライオンごきげんよう(フジテレビ)」のロボットの製作、運用などメディア関連も手がける。また自身も現役選手として全国の二足歩行ロボット大会に参加している他、競技会ロボファイトを主催するなどホビーロボットの啓蒙活動もしている。

東京国際ブックフェア2010

協会ブースを工夫をこらして盛り上げる

第一七回東京国際ブックフェア(TIBF二〇一〇)が七月八日〜十一日に、東京・有明の東京ビックサイトにおいて開催された。当協会も例年どおり後援し、会員各社から出ている販売・出展委員が知恵と汗を結集して展示・販売のためのブースを展開しました。

電子書籍元年の掛け声で注目されたデジタルパブリッシングフェアとの併催で行われたこともあって、来場数は昨年を二万三〇〇〇人上回る八万七四九人。出展社数も、世界二五カ国より、過去最多の九八四社でした。

当協会ブースへの出展参加社は昨年より二社増の六四社、出品総冊数は昨年より二二冊多い二五九一冊でした。総売上冊数は昨年を六五冊上回る四六六冊、総売上額は昨年より二万一八一六円増の

二二万七五三一円となりました。冊数の増加に比べて金額の伸びが低いのは、長い景気低迷を反映しているのかもしれないともあれ、昨年を上回る販売実績を残せたのは、会員各社からノベルティを提供してもらって活用したり、今年初の試みとして五〇〇〇円ごとのお買い上げに対して一回の抽選で、当たりの方には五〇〇円の図書カードを差し上げるといったサービスなどで、ブースを盛り上げた結果といえます。

会期中の実売とは別に、昨年からはじめたTIBFへの来場のお誘いを兼ねた《自然科学書協会出品展示リスト》を関東一円の大学・短大の図書館へのDMによる追加発注も考慮すると、まずまずの実績を残せたのではないかと思います。昨年好評だった特別企画を今年もおこ

ない、「入門・基礎本コーナー」として、平台にて展開しましたが、これについては委員の反省会で、「来場者に、こちらの意図がうまく伝わっていないかたのではないか」という声もあがって、テーマ設定が来年の課題となりました。

なお、各社対応となっている割引販売については、三二社が割引販売をおこなって、三三四冊の売上数。三三社が定価販売し、一五二冊の売上でした。やはり、割引販売のほうがよく売れるようです。

(緑書房 森田 猛)

北京国際BF視察レポート

私にとつて北京訪問は四年ぶりで、四

度目の北京国際図書展示会の視察となりました。この間、二〇〇八年の北京オリンピック開催に伴い、大規模なインフラ整備が行われた模様で、かつてあった古い建物や街並みは取り壊され、数多くの高層ビルが建築されていた。道行く自家用車やタクシーも以前に比べてグレードが上がり、中国の急速な経済発展を目の当たりにすることとなった。しかし、いささかバブル感もあって、このままの状態がいつまで続くのか期待と不安が入り混じったのも事実である。市民を見ると、顔色や服装によつて地元の富裕層と出稼ぎ労働者の違いが目瞭然に分かり、まだ貧富に格差があると感じられた。

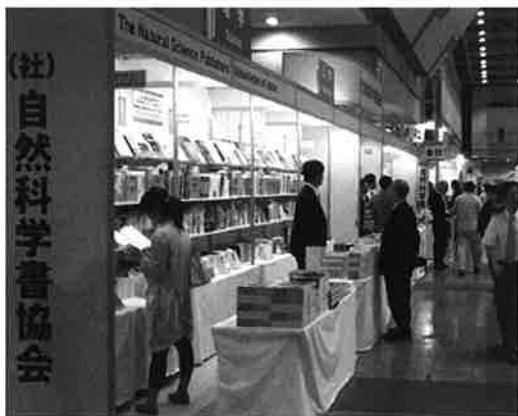
さて、第一七回北京国際図書展示会ですが、八月三〇日(月)から 九月三日(金)の五日間、中国・北京市の中国国際展覽センターで、中国新聞出版総署(国家版权局)ほかの主催により開催された。

主催者発表によれば、今回の展示会規模は、参加国・地域数五八ヶ国・地域(含む中国)、一八四一の出版社、総ブース数二、一五〇ブースで、前開催を上回る出展規模となり、入場者数は二〇万人を予想しているとのこと。

テーマ国は「インド」で、神秘的なイメージのブースに、歴史的名著から最新作品まで幅広い展示を行ない、注目を集めていた。日本事務局によると、同展示会への日本からの出展は三七ブース、一五〇社で、海外最大級の規模とのこと。当協会ブースには二三社から一三〇点の出展点数があった。

中国における日本語翻訳ニーズは依然として旺盛で、日本ブースは連日多数の翻訳出版の商談で賑わいを見せていた。中国側からの積極的な版權の売買が多くなつてきており、特に著名な作家については、他国と比較しても遜色ないほど版權料金も上昇してきているようだ。街中の大型書店においても、現地書籍に混じって日本書の翻訳が数多く見られるようになっていくとのことであった。

二〇一一年の北京国際図書展示会は八月三一日(水)〜九月四日(日)の日程で、会場を中国国際展覽中心(新館)に移して開催される予定である。(コロナ社 牛来真也)



自然科学書フェア in 名古屋

COP10のパートナーシップ事業として

当協会が有力書店の協力を得て催す自然科学書フェアは、七月十二日～八月十五日の二カ月間余り、丸善名古屋栄店でを行いました。昨年は仙台と京都の二カ所での実施でしたが、本年は十月下旬に名古屋で開かれる生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)のパートナーシップ事業として、名古屋のみの開催です。

COP10に協賛した内容のフェアとするということであったため、会員社全社に関わりのあるテーマではなく、出展社数は四一社にとどまりました。ただ逆に、テーマが明確だったので選りすぐりの商品が揃ったフェアとなり、丸善栄店のフェア責任者には、「専門家の方々にとっては目を見張るものとなった」という評価をいただきました。しかし残念ながら、七、八月時点ではまだ、COP10に対しての一般市民の認識、注目度がかかなり低く、当協会のフェアとの相乗効果は十分にあげられなかったと言える売上結果となっています。

出品点数が一二点、出展総冊数が三二〇冊に対して、期間内販売数が八四冊。期間内売上数は二六万八〇八〇円です。販売・出展委員長としては、自然科学書フェアのインパクトをより鮮烈なものにするために、専門書フェア全体の構成についても丸善栄店にもっと踏み込んだ提案を

してみるなど、するべきことがあったのではと反省しています。

なお、フェアの残部の一部について、出展した会員社に栄店さんから相談のうえ、COP10国際会議の閉幕まで返品せず、COP10関連コーナーにて販売するとう対応をとっていただきました。

(緑書房 森田 猛)

「自然科学書協会講演会報告」

七月十七日に、愛知県名古屋市名古屋商工会議所第五会議室にて、自然科学書協会講演会2010が開催された。参加者は五四名。

講演テーマの一つは「愛知県名古屋のCOP10について」。今年の十月に名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催されることもあり、COP10支援実行委員会のアドバイザーでもある、名古屋市立大学大学院経済学研究科の香坂玲准教授にご講演いただいた。生物多様性の必要性からはじまり、COP10の概要や意義、問題点までわかりやすく説明いただいた。そもそも人間は生態系からさまざまな利益を得ている。生物多様性が人間にもたらすメリットは大きい。生物多様性を守り、その恵みを将来にわたって利用するために結ばれた条約が生物多様性条約(CBD)である。CBDは現在一九三の国と地域が締結し

ているが、決議は立場も状況も違う国々の総意となるため、多様な意見を尊重しながらお互いに歩調を合わせなければならぬという難しさもある。エゴが流行しているが、私たちが思っているほど事は単純ではないと改めて認識させられる内容であった。

二つめのテーマは「生き物とかおりの神秘」で、嗅覚味覚研究所所長で、香りの図書館館長でもある筑波大学の澁谷達明名誉教授にご講演いただいた。人間は五感の中で視覚が一番鋭い視覚動物であるというお話からはじまり、さまざまな生き物の持つ嗅覚の研究について紹介していただいた。まずは物理学者の寺田寅彦が随筆「とんびと油揚」で、鳥の嗅覚が鈍いという説に疑問を呈していたという話から、ハゲワシの嗅覚についての研究が紹介された。そのあと、糞を食料とするスカラベの研究が紹介され、最後にカイコガのメスの性フェロモンとオスの行動の研究について紹介された。時間を超過するほど話題が豊富で、「におい」の奥深さに触れられた時間であった。(オーム社 竹西素子)

「専門委員会報告」

●研修委員会

前期は第一回を二〇〇九年一〇月二七日に、第二回は二月一八日に研修委員の福島正太(東京大学出版会)を講師として

「LMS&エデュケーション」勉強会を開催し、これから高等教育機関が実施するであろう方向性と、われわれ出版社が取り組むべき可能性を学びました。そして、その内容を広げた会員研修会を二〇一〇年五月二〇日、講師に浜野誠氏(ソフトバンクモバイル)をお迎えし「モバイルインターネットデバイスと学びの可能性」をテーマに開催しました。会員社より八〇名を超える参加者があり関心の高さがうかがえました。詳細につきましては会報二〇一〇年No.3をご覧ください。

さて今期ですが、まず来年三月に三省堂書店様と共催でサイエンスカフェを開催いたします。テーマ・講師については委員会にて検討中ですが、ご期待にお応えできるとなりたいと思います。また、会員研修会につきましても、今期中に開催できればと思っております。が、テーマにつきましても皆様からの声を反映したものをとっておりますので、「これは」「これを！」というものがありましたら、ぜひお知らせください。(委員長 首根良介)

●広報委員会

広報委員会では、丸善名古屋栄店様の協力を得て開催された自然科学書フェアの開催時期とテーマに連動した講演会を七月一七日に開催いたしました。その内容は本号の報告を参照いただけますが、開催時期、テーマ、周知・集客方法などさまざまな教訓を得ることができました。それらは、協会の活動をより多くの協会委

員ならびに員外の方々には理解していただくことを目的とする広報委員会活動の具現化のために活かし、今後の運営の更なる改良に努めようと思えます。また、昨今のスキャンサービスなど、「現代版権事件」ともいえる事例が目止まりつつありますことを念頭に、著作権侵害の阻止、出版社の権利獲得に向けた啓蒙活動にも識者のご協力を得て注力したいと考えます。とにかく日常の活動は、広報委員会委員はもちろんのこと、協力下さっている多くの方々で成り立っていることに對し、改めてこの場をお借りして感謝申し上げます。

(委員長 竹生修三)

●国際委員会

本誌別掲の通り八月三〇日(月)から九月三日(金)まで第一七回北京国際図書展示会が中国国際展覽センターで開催され、協会としては共同ブース展示および数社の単独ブースも含めて版権のオフアームも活発でした。因みに、同展示会全体では二、三七九件のオフアームがあり、前年比一九・四八%増とのこと。来年も同国際展示会では活発な展開が予想され、当協会としては今年同様あるいは今年以上の規模の出版を予定しています。

一〇月六日(水)から一〇日(日)までは第六二回フランクフルトブックフェアがフランクフルト国際見本市会場にて開催されました。テーマ国はアルゼンチン。こちらも例年通りの共同ブースで、当協会社の出展は二六社五二点となっております。

今後も、出版文化国際交流会、書協などと連携を図り、必要に応じて国際展示会へ出展し国際化を促進したいと思えます。協会社各位のご協力を引き続きお願いいたします。

(委員長 小立鉦彦)

●総務委員会

1. 一般社団法人への移行準備
2. 新公益法人会計基準への適合化準備
3. 会計ソフトの導入
4. ホームページの改善点の洗い出し

などの課題が加わりました。特に、一般社団法人への移行準備については、申請のタイムリミットを意識した作業になるため実務作業においては、関係各位との連携を更に密する必要があると。

また、前期決算は新会計基準への移行段階のため、従来予算と新方式の決算数字を比較する変則的なものとなり、注記でご確認いただくこととなりました。しかし、当期の決算は新方式となるため、より分かりやすいものとなることにも、一般社団法人としての申請が段階的に進んでいることをご理解いただけたと思います。会計ソフトの導入については、日常業務の軽減はもとより、決算の迅速化にも結びつくものと期待しております。

ホームページの改善については、作業部会を過去六回開催し、へ自然科学書協会としてホームページをどう活用すべきか?、ひいてはへどう見られなければならぬか?といった視点から、デザイン

及びコンテンツの見直し、ページビューを増やすための方法論の検討などを行ってまいりました。現在、結果のとりまとめ作業を行っております。

(委員長 飯塚尚彦)

●著作・出版権委員会

著作権をめぐる最近の動きは、著作物のデジタル化に伴い複雑かつ広汎になり、自然科学書協会著作・出版権委員会としても丁寧な慎重に対応をしていく必要があります。

現在の主な課題を簡単ですが、以下のように整理いたしました。

1. 文化審議会著作権分科会で進めている「権利制限の一般規定」については引き続き反対していきます。
2. 出版物の複写許諾に関する集中処理機構について、JCOPYへの一本化に向けて推進をしていくべく働きかけます。
3. 「出版社の権利」については、出版社が著作物を版面に固定し、流通させるという側面において著作隣接権者としての役割を担っており、権利の創設は重要ではありませんが、著作者のもつ複製権、公衆送信権等の著作財産権の出版社への移転を含め、両者の間の整合性を保ち、権利処理が複雑化しないことを念頭に検討を継続します。
4. 著者との契約については、電子媒体を含めたさまざまな利用を可能にする専門出版社の特性をいかした契約書の可能性を考えていきます。
5. 教育に電子書籍端末を利用する大学

が増えています。著作物の適正利用の推進のために、学生に対して大学による指導の必要性を訴えていきます。

以上の課題解決のため会員各社のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(委員長 大畑秀穂)

●販売・出展委員会の今期の抱負

今期も引き続き「東京国際ブックフェア」の出展をメインの活動としていきたいと思えます。九月十七日の定例理事会において、TIBF2011への出展が決定しました。会期は来年の七月七日(木)〜十日(日)です。

経費をかけての出展ですから、自然科学書と当協会の存在を強くアピールするため、そして売上を少しでも増やすため、総勢四〇人の委員で、さらなる工夫をします。冊の段階で、定価販売と割引販売の商品を分けたいのか、どのようなのか。一社につき三〇冊まで無料の出品を、五〇冊まで無料にして、冊をギッシリとした物量感で満たしてはどうなのか、など。委員会で議論を深めていきます。

自然科学書フェアの開催も重要な活動です。講演会を担当する広報委員会と連携をとり、開催都市、開催書店、開催時期を詰めます。今年の反省を踏まえ、少しでも売上があがるよう、委員会として知恵を絞り、汗を流さなければと気持ちをはきしめております。

(委員長 森田 猛)

■文部科学大臣表彰に二件を推薦

当協会では、平成二三年度科学技術分野の文部科学大臣表彰推薦候補を会員各社より募っておりましたが、今回、科学技術賞理解推進部門に次の二件を推薦いたしました。(氏名は筆頭者名、敬称略)

・「一連の元素周期表の出版による青少年の化学知識の理解増進」株式会社化学同人 平祐幸

・「土壤微粒形成及び崩壊のメカニズムと維持管理技術の普及啓発」弘前大学 青山正和 (社団法人 農山漁村文化協会 推薦) 受賞者の決定は来年春の予定。

■第六〇期第一回定時(決算)総会

七月二五日一七時から日本出版クラブ会館で開かれ、第五九期の事業報告ならびに決算が承認された。当日は会員社七二社から代表者三四名が参加した。(委任状三三名)。

■第六〇期理事会・委員会開催一覧 (二〇一〇年七月〜九月)

●理事会

・七月八日(木) 七月臨時理事会／二時〜三時五分 東京ビッグサイト

・七月二五日(木) 七月定例理事会／一五時〜一六時三〇分 日本出版クラブ会館

・九月一六日(木) 九月定例理事会／一五時〜一七時 日本出版クラブ会館

●専門委員会

・七月二日(金) 監事会／二時〜四時 文化産業信用組合

・七月九日(金) 総務委員会ホームページ

ワーキンググループ例会／一三時三〇分〜一五時三〇分 自然科学書協会事務所

・七月一六日(金) 販売・出版委員会東京国際ブックフェア運営委員会／九時三〇分〜一六時 文化産業信用組合

・七月一六日(金) 販売・出版委員会／一六時〜一七時三〇分 文化産業信用組合

・七月二九日(木) 常務理事会／一八時〜二二時 すがも田村

・七月三〇日(金) デジタル化対応検討委員会準備委員会／一四時〜一六時 出版クラブ会館

・八月一九日(木) 広報委員会／一六時〜一七時 文化産業信用組合

・九月七日(火) 研修委員会／一四時〜一五時 文化産業信用組合

・九月九日(木) 新法人移行実務委員会／一五時〜一七時 學士會館

・九月二四日(火) 総務委員会ホームページ・ワーキンググループ例会／一三時三〇分〜一六時 自然科学書協会事務所

■その他

◆七月八日(木)〜七月二日(日) 東京ビッグサイトにて東京国際ブックフェア2010が開催されて、当協会も協賛し出展した。

◆七月二日(月)〜八月二五日(日) 丸善名古屋栄店にて自然科学書フェア開催

◆七月一七日(土) 名古屋商工会議所にて「自然科学書協会講演会2010」開催

◆八月二日(火)・九月八日(水)・二四日(金) 「平成二三年度科学技術分野の文部科学大臣表彰」受賞候補者のヒアリング(文部科学省)

■事務局だより

●(株)工業調査会が八月二日付で退会し、新谷滋記常務理事が八月三〇日付で退任した。

〈住所変更〉

●株式会社博友社
旧住所 東京都文京区関口一―二四―一〇
上野ビル

新住所 東京都荒川区荒川五―九―一七
博文館ビル

新電話 〇三―六四五八―三八七二
新ファクス 〇三―一五六〇―四―三三三九三

●株式会社講談社サイエンティファイク

旧住所 東京都新宿区新小川町九―二五
日商ビル

新住所 東京都新宿区神楽坂二―一―四
ノービイビル六階

電話・ファクス 変更なし

■年末会員集会開催のお知らせ

当協会恒例の年末会員集会在、二月二日(木)一八時より東京會館二階ゴールドルームで開催されます。相互交流を深めるタベとして、会員代表者、各専門委員の皆様のご参加をお願いします。

○お詫びと訂正

前号「朝倉元理事長の叙勲を祝う」の記事において、執筆者志村幸雄氏の役職が顧問となっておりましたが、正しくは相談役の誤りです。お詫びして訂正いたします。

第五九期/第六〇期広報委員

〈担当専務理事〉 筑紫恒男(建帛社)
〈委員長〉 竹生修己(オーム社)
〈副委員長〉 長 滋彦(技報堂出版)
田中久米四郎(電気書院)

〈委員〉

瀧原恒平(朝倉書店)
高杉 昇(家の光協会)
竹西素子(オーム社)
大井隆之(コロナ社)
遠矢良太郎(南江堂)

編集後記

お酒が好きである。仕事帰りに居酒屋に足を向ける。と言うよりほぼ習慣になっており、意に反して自然と足がむいてしまう。そこで悩むのが何処にするかである。不幸にも？帰宅途中にはネオンキラキラの飲み屋街がある。当然ながら「まずい」、「高い」、「うるさい」ところは避け「おいし」、「やすい」、「落ち着いた」、「楽しい」ところを選ぶ。中でも、自然と足が向いてしまうところがある。会社には行きたくなくても、そこには行きたくなくなる時がある。

会社というと、ちよつと前まで「3K」というのがあった。「きつい」、「汚い」、「危険」という劣悪な職場環境を指し、避けられていたが昨今は「3I」というのがあるらしい。会社内の物理的、衛生的な面は改善されたが、働く者の精神面での不安が大きいらしく「3I」は、「疲れる」、「楽しくない」と言うそうである。となれば誰でも会社に行きたくないかもしれない。居酒屋に「3I」はない。暖簾をくぐった瞬間に自分の顔がゆるんでいくのがわかる。年齢も仕事も違うが同士の、微妙な問合いでコミュニケーションをとっている。これが会社であつたら朝の通勤も楽しみかもしれない。朝からうかれたサラリーマンで溢れていれば、景気も上向くかも・・・。(R・T)